

事前評価個表

整理番号	58
------	----

地域（地区）名	よどがわじよりゆう 淀川上流地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	京都府	対象市町村	京都市ほか14市町村
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	府、市町、森林組合、林業事業者等

事業の概要・目的	淀川上流地域は、155千haの民有林が広がり、そのうちの約40%が人工林であり、伐採に適した8から11齢級の森林が49%を占めてる。 京都議定書の第一約束期間が始まり、水源かん養機能や土砂災害防止、木材の生産機能をはじめとする森林の公益的機能を高めるため、森林資源を有効に活用しながら、安心・安全で活力ある地域の環境づくりについて地域住民の要望や期待に応じていきながら、地球温暖化防止に向けて本格的に取り組んでいる。 また、長引く業況の低迷や林業労働者等の高齢化、減少により森林の管理は十分に行き届いておらず、荒廃した森林の再生が喫緊の課題となっている。このような中で、先進的な森林組合を中心として利用間伐に取り組んでおり、今後は人工林面積が少ない南部地域においても森林所有者等と連携をより強化した上で地域全体において間伐材の有効利用法を検討しつつ、木材消費地への流通を促進し、森林資源の循環利用を図れるよう、施業を集約化した利用間伐の推進に取り組むこととする。 市町村森林整備計画でも森林施業の遅れが懸念されていることから、本事業実施期間においては、引き続き保育施業を進めるとともに、7,000ha以上の間伐等を実施し、併せて森林作業道を100,000m以上開設することにより、利用間伐を効率的・効果的に進めるよう努める。 また、治山事業による保安林整備に係る保育施業、間伐施業との連携を強化し、森林の公益的機能のさらなる向上を図ることとする。
事業内容・事業費	森林整備：9,674ha 人工造林、下刈り、雪起こし、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等 総事業費：2,105,000千円
費用対効果分析結果	B/C = 6.75
評価結果	必要性：森林の公益的機能の発揮や適正な保育管理の推進からみて必要である。 効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。 有効性：間伐を中心とした森林施業を進め、併せて森林作業道を開設することにより、将来的な利用間伐の効率化も視野に入れた計画であることから有効である。 本計画では、森林の公益的機能を発揮するために必要な森林整備が適切に計画されている。 また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。

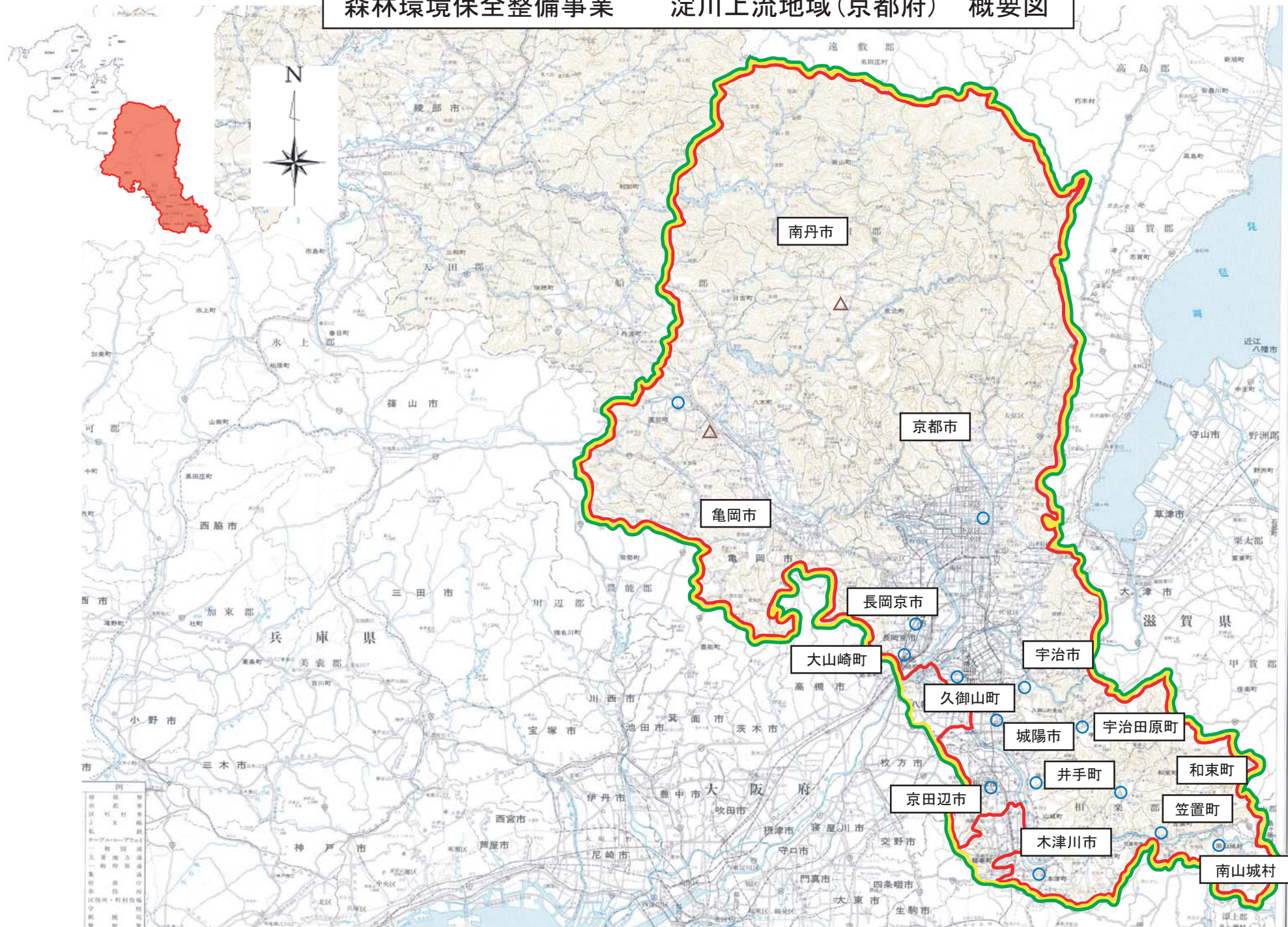
便 益 集 計 表
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
地域名: 淀川上流

京都府
(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	9,859,933	
	流域貯水便益	1,701,322	
	水質浄化便益	2,904,498	
山地保全便益	土砂流出防止便益	5,589,440	
	土砂崩壊防止便益	322,371	
環境保全便益	炭素固定便益	2,637,313	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	39,941	
総 便 益 (B)		23,054,818	
総 費 用 (C)		3,412,740	
費用便益比	$B \div C = \frac{23,054,818}{3,412,740} = 6.75$		

森林環境保全整備事業 淀川上流地域(京都府) 概要図



事前評価個表

整理番号	59
------	----

地域（地区）名	かこがわ 加古川地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	兵庫県	対象市町村	神戸市ほか21市町
事業実施期間	H23 ～ H27（5年間）	事業実施主体	市町、林業公社、森林組合等

事業の概要・目的	本事業地は、県南東部に位置する神戸・阪神・東播磨・北播磨・丹波・淡路地域の25市町で県土面積の約46%を占め、阪神大都市圏が含まれることから観光・レクリエーション施設が多い。 森林面積 204,523haで、うち民有林面積が197,265ha(96%)を占める。人工林面積 50,283haで人工林率 25.5%は県平均よりも低い。樹種別に見るとヒノキが62%と高く古くからヒノキの植栽が盛んな地域でもある。また、県民の森林に対する期待は、北部地域は林業生産地として、南部地域は災害防止や二酸化炭素吸収、保健文化等の機能への期待が高い。 しかし、林業採算性の悪化などにより間伐等の森林整備が適切に実施されていない森林が一部に見られるなど、多面的機能の低下が危惧されている。 このため、県が進める流域林業経営モデル団地や低コスト経営団地に積極的に取り組み、面的まとまりのある施業実施による施業集約化・低コスト化を図る。また、適正な維持管理がなされていない森林について、間伐等の施業の重点化を行い手遅れ林分の解消により、森林の持つ公益的機能を高度に発揮させる。
事業内容・事業費	森林整備：7,621ha 人工造林、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等 総事業費：3,160,980千円
費用対効果分析結果	B/C = 4.44
評価結果	必要性：森林整備が必要な森林が多く存在することから、森林の公益的機能を高めるためにも事業実施は必要である。 効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。 有効性：資源として本格的に利用可能な段階を迎えている人工林等を適正に整備することにより、公益的機能の発揮と県産材の安定供給が図られ有効である。 森林は多面的な機能を有しているが、これらの機能を一度失うとその回復には長期間を要することから、生育段階や立地条件に応じた適時・適切な森林整備が不可欠である。 本計画では、森林の公益的機能の発揮に配慮した計画としているほか、効率性や有効性が認められることから、本計画を実施することは適当である。

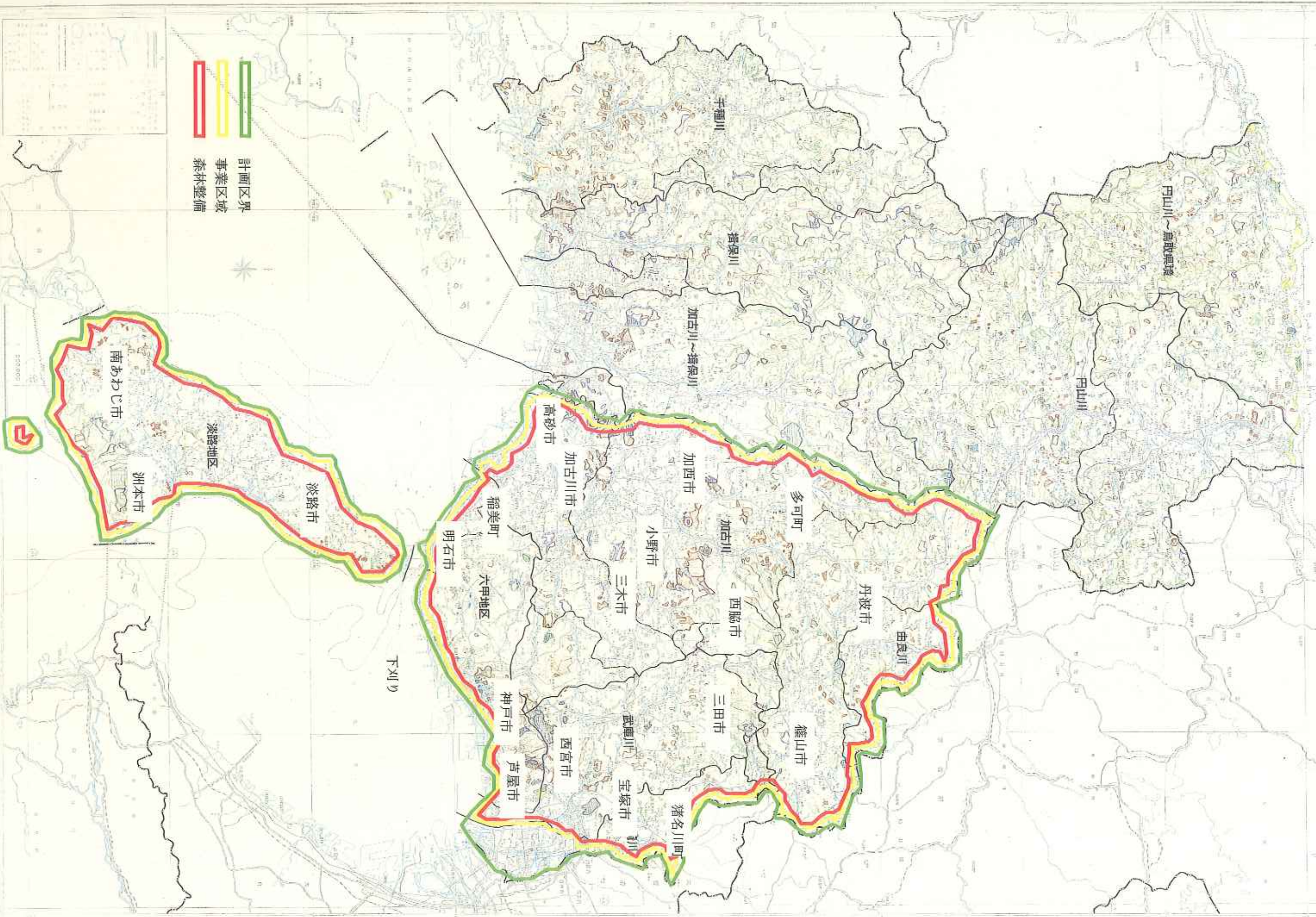
便 益 集 計 表
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
地域名: 加古川

兵庫県
(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	5,344,365	
	流域貯水便益	1,425,848	
	水質浄化便益	2,434,210	
山地保全便益	土砂流出防止便益	5,806,203	
	土砂崩壊防止便益	18,800	
環境保全便益	炭素固定便益	3,021,152	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	2,271,152	
総 便 益 (B)		20,321,730	
総 費 用 (C)		4,575,787	
費用便益比	$B \div C = \frac{20,321,730}{4,575,787} = 4.44$		

森林環境保全整備事業 加古川流域地区（兵庫県概要図）



事前評価個表

整理番号	60
------	----

地域（地区）名	いぼがわ 揖保川地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	兵庫県	対象市町村	姫路市ほか10市町
事業実施期間	H23 ～ H27（5年間）	事業実施主体	市町、林業公社、森林組合等

事業の概要・目的	本事業地は、県南西部に位置する播磨・西播磨地域の11市町で県土面積の約29%を占め、瀬戸内から中国山地の分水嶺まで位置する。 森林面積 180,596haで、うち民有林面積が163,770ha(91%)を占める。人工林面積 81,939haで人工林率 50.0%は県平均の41.7%を上回る。人工林を齢級別で見ると9齢級以上が61%を占め人工林化に早く取り組んだ地域で県下でも有数の林業地帯である。 しかし、林業採算性の悪化などにより間伐等の森林整備が適切に実施されていない森林が一部に見られるなど、多面的機能の低下が危惧されている。 このため、県が進める流域林業経営モデル団地や低コスト経営団地に積極的に取り組み、面的まとまりのある施業実施による施業集約化・低コスト化を図る。また、適正な維持管理がなされていない森林について、間伐等の施業の重点化を行い手遅れ林分の解消により、森林の持つ公益的機能を高度に発揮させる。
事業内容・事業費	森林整備：15,152ha 人工造林、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等 総事業費：6,941,930千円
費用対効果分析結果	B/C = 4.47
評価結果	必要性：森林整備が必要な森林が多く存在することから、森林の公益的機能を高めるためにも事業実施は必要である。 効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。 有効性：資源として本格的に利用可能な段階を迎えている人工林等を適正に整備することにより、公益的機能の発揮と県産材の安定供給が図られ有効である。 森林は多面的な機能を有しているが、これらの機能を一度失うとその回復には長期間を要することから、生育段階や立地条件に応じた適時・適切な森林整備が不可欠である。 本計画では、森林の公益的機能の発揮に配慮した計画としているほか、効率性や有効性が認められることから、本計画を実施することは適当である。

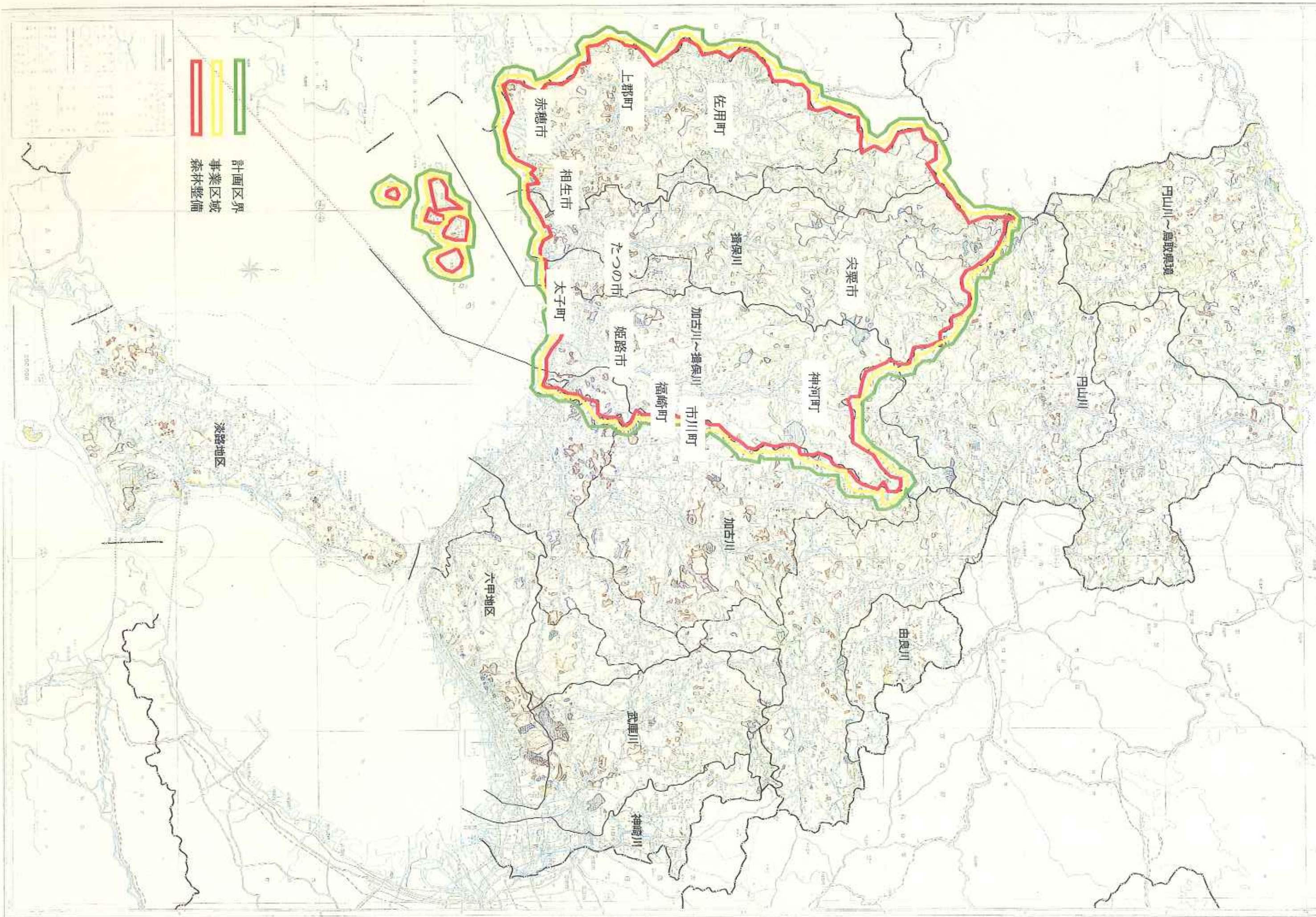
便 益 集 計 表
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
地域名: 揖保川

兵庫県
(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	11,432,030	
	流域貯水便益	3,233,596	
	水質浄化便益	5,520,391	
山地保全便益	土砂流出防止便益	12,732,986	
	土砂崩壊防止便益	45,898	
環境保全便益	炭素固定便益	6,341,226	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	4,646,046	
総 便 益 (B)		43,952,173	
総 費 用 (C)		9,824,203	
費用便益比	$B \div C = \frac{43,952,173}{9,824,203} = 4.47$		

森林環境保全整備事業 揖保川流域地区 (兵庫県概要図)



事前評価個表

整理番号	6 1
------	-----

地域（地区）名	まるやまがわ 円山川地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	兵庫県	対象市町村	豊岡市ほか4市町
事業実施期間	H 2 3 ～ H 2 7 （5年間）	事業実施主体	市町、林業公社、森林組合等

事業の概要・目的	本事業地は、県北部に位置する但馬地域5市町で県土面積の約25%を占め、中国山地の分水嶺以北から日本海まで位置し、兵庫県の最高峰氷ノ山など1,000m級の山々が連なる。 森林面積 176,538haで、うち民有林面積が170,313ha(96%)を占める。人工林面積 89,342haで人工林率 52.5%は県平均よりも高く流域単位ではもっとも人工林化が進んだ地域で、林業は古くから重要な基幹産業の一つである。 しかし、林業採算性の悪化などにより間伐等の森林整備が適切に実施されていない森林が一部に見られるなど、多面的機能の低下が危惧されている。 このため、県が進める流域林業経営モデル団地や低コスト経営団地に積極的に取り組み、面的まとまりのある施業実施による施業集約化・低コスト化を図る。また、適正な維持管理がなされていない森林について、間伐等の施業の重点化を行い手遅れ林分の解消により、森林の持つ公益的機能を高度に発揮させる。
事業内容・事業費	森林整備：19,003ha 人工造林、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等 総事業費：8,037,850千円
費用対効果分析結果	B/C = 5.07
評価結果	必要性：森林整備が必要な森林が多く存在することから、森林の公益的機能を高めるためにも事業実施は必要である。 効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。 有効性：資源として本格的に利用可能な段階を迎えている人工林等を適正に整備することにより、公益的機能の発揮と県産材の安定供給が図られ有効である。 森林は多面的な機能を有しているが、これらの機能を一度失うとその回復には長期間を要することから、生育段階や立地条件に応じた適時・適切な森林整備が不可欠である。 本計画では、森林の公益的機能の発揮に配慮した計画としているほか、効率性や有効性が認められることから、本計画を実施することは適当である。

便 益 集 計 表
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
地域名: 円山川

兵庫県
(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	12,430,449	
	流域貯水便益	6,609,058	
	水質浄化便益	11,282,964	
山地保全便益	土砂流出防止便益	14,935,915	
	土砂崩壊防止便益	31,963	
環境保全便益	炭素固定便益	7,536,027	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	5,546,614	
総 便 益 (B)		58,372,990	
総 費 用 (C)		11,511,865	
費用便益比	$B \div C = \frac{58,372,990}{11,511,865} = 5.07$		

森林環境保全整備事業 円山川流域地区 (兵庫県概要図)

